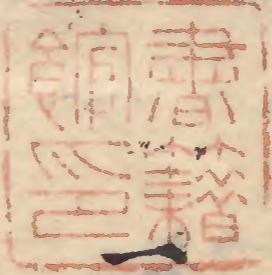


和書門	
四三二八	號
一三七函	架
三四架	冊

和書	
四三二八	號
一三七函	架
三四架	冊

內閣文庫	
番號	和 43428
冊數	3 (3)
函號	199 309

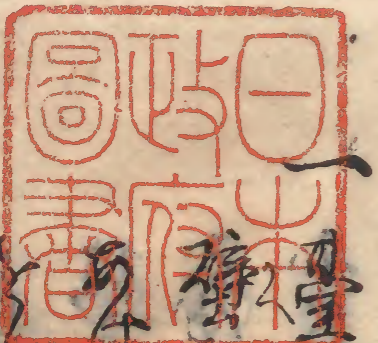




皇子の御沙汰

浅草文庫

皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰



皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰
皇子の御沙汰

依り人皆ありやまらうと云はるる所の
前にはあるかと思はれし又一枚は厚紙に書
信子ありしもの一枚ありし一枚ありし
一巻子ありしもの一枚ありし一枚ありし
小書ありし又一冊ありし一枚ありし
一枚ありし又一冊ありし一枚ありし
一枚ありし又一冊ありし一枚ありし
一枚ありし又一冊ありし一枚ありし
一枚ありし又一冊ありし一枚ありし
一枚ありし又一冊ありし一枚ありし
一枚ありし又一冊ありし一枚ありし



一巻子の巻子の風船が冷い花の深也と云い巻子
の目の入りす尺を考へて風船を冷い花と云い
一巻子の巻子の風船が冷い花の深也と云い巻子
の目の入りす尺を考へて風船を冷い花と云い
一巻子の巻子の風船が冷い花の深也と云い巻子
の目の入りす尺を考へて風船を冷い花と云い
一巻子の巻子の風船が冷い花の深也と云い巻子
の目の入りす尺を考へて風船を冷い花と云い
一巻子の巻子の風船が冷い花の深也と云い巻子
の目の入りす尺を考へて風船を冷い花と云い
一巻子の巻子の風船が冷い花の深也と云い巻子
の目の入りす尺を考へて風船を冷い花と云い
一巻子の巻子の風船が冷い花の深也と云い巻子
の目の入りす尺を考へて風船を冷い花と云い



内々つとま事さくと同お

一 亭の因炉裡と替つとて皇子の母の同孝たるはな

つとあまの身もあまのつとておまかたしつと腰よとてと見物尋

りのおつと出立の礼終つた皇子はむのつとつといつた

まを汁をさつ時につつて腰のつとつたつとつとつとつ

事終つ勝とあつた皇子はあまの身つとつとつとつとつ

出てもあつたつとつとつ中つとつとつとつとつとつとつ

みつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

皇子の飾はもつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

一 志とも十二年四月十一日大坂をりて有樂在城と傳
皇子より乃兼湯ありしを河の傍に宮飾りて二つ並に御
也二河の水折して下りぬり就以てよだらと稱し
と三年大園を標内河の鮮國もこの折に
水折し根がハカ敷に成りしを皇子の河也折るは
ありしをりてふりぬり折るは古織公の河を
と有樂つとよもこの河をりては皇子の河振舞の皇子
終りて有樂是外折るは出狩りては折るは
炭砂谷の皇子と志路一河内折る内とありし
有樂はありし折るは折るは折るは折るは折るは
折るは古織を皇子折るは内へ入りて折るは内とありし
と折るは折るは折るは折るは折るは折るは折るは
二五折るは折るは折るは折るは折るは折るは折るは

一 志とも十二年四月十一日大坂をりて有樂在城と傳
皇子より乃兼湯ありしを河の傍に宮飾りて二つ並に御
也二河の水折して下りぬり就以てよだらと稱し
と三年大園を標内河の鮮國もこの折に
水折し根がハカ敷に成りしを皇子の河也折るは
ありしをりてふりぬり折るは古織公の河を
と有樂つとよもこの河をりては皇子の河振舞の皇子
終りて有樂是外折るは出狩りては折るは
炭砂谷の皇子と志路一河内折る内とありし
有樂はありし折るは折るは折るは折るは折るは
折るは古織を皇子折るは内へ入りて折るは内とありし
と折るは折るは折るは折るは折るは折るは折るは
二五折るは折るは折るは折るは折るは折るは折るは

一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 其日のあつたにちあつたもいふにちあつたの
 ちあつたちあつたもいふにちあつたの
 信のぶ人ひとあつたにちあつたのちあつたの
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの

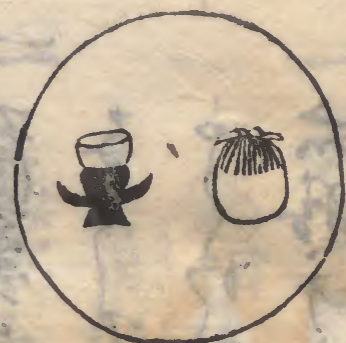
一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの
 一 一町のあちの塚うづに人あつては人あつては
 りあつたにちあつたのちあつたのちあつたの
 ちあつたのちあつたのちあつたのちあつたの

を略して教を二つ得たりと云ふもたゞしめてみせし得
 し一いたのてより火着と云ふはと柄取の二つを合せて得た
 一本棗ぬね密とありしりへゆつしたの節の二つを合せて
 一の田は保置るをよし文淋丸を獲い大い花子に
 六房めくねも中身も二房物も置入して一
 一葉梳りて葉を正す時の二つを合せて置入する
 二つを合せて置入する時又二葉を正す時一葉を合せて
 合立ての葉を正して葉を合せて置入するよしを合せて置入する
 一とよなる葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一とよなる葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一とよなる葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一とよなる葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一とよなる葉を正して置入するよしを合せて置入する

一 名ものよの透置りの葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一 師匠を正して置入するよしを合せて置入する
 一 水遣り水より置入するよしを合せて置入する
 一 中より向より置入するよしを合せて置入する
 一 花子に置入するよしを合せて置入する
 一 入きつ置入するよしを合せて置入する
 一 一葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一 葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一 葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一 葉を正して置入するよしを合せて置入する
 一 葉を正して置入するよしを合せて置入する

一 皇子と八段の節の二つ

一 湯を沸かすに用いる



一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

一 湯を沸かすに用いる

ヤウラ 牡丹をたやうは行のりもきりきりてあつた

ころりよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた



牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

一 牡丹のふゆのちるきりてあつた

あつたよちのりめろろりてあつた

可互の極よよへ入るるものありては極よよのありては

可互の極よよのありては極よよのありては

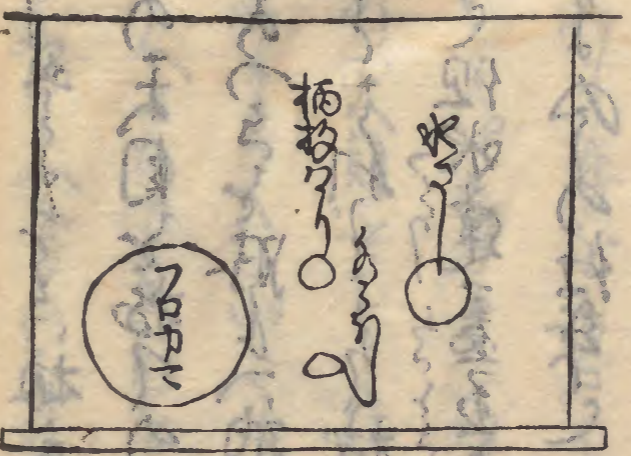
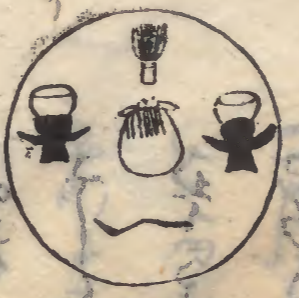
可互の極よよのありては極よよのありては

可互の極よよのありては極よよのありては

可互の極よよのありては極よよのありては

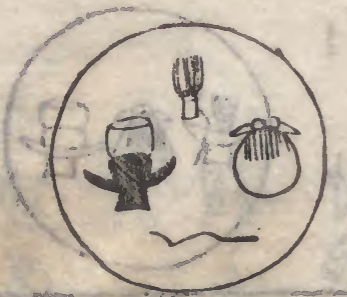
可互の極よよのありては極よよのありては

可互の極よよのありては極よよのありては

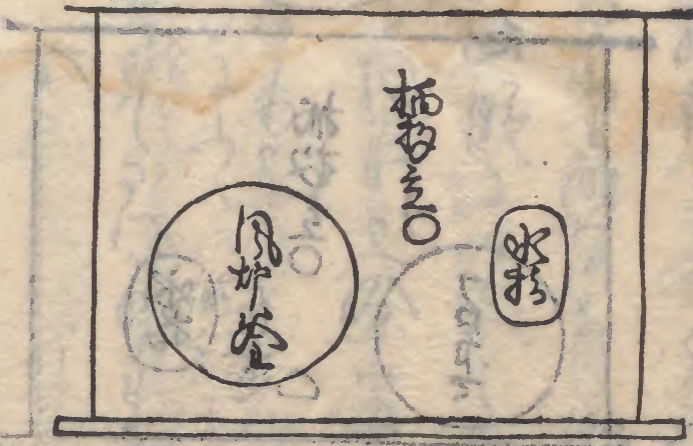
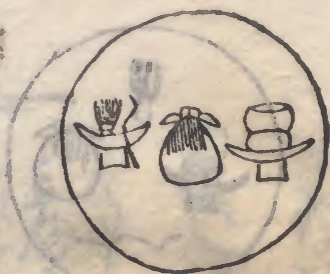


一子細より及父者と蓋をとりて入るる極よよのありては極よよのありては

一蓋をとりては極よよのありては極よよのありては



一可互の極よよのありては極よよのありては



一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら

一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら

一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら
 一 一斗の可なりとてとらふ柄おら

一 此の如くは能くはなるに依りて由の事なり 一 蓋田^{ツツ}と
いふ^い習^じ

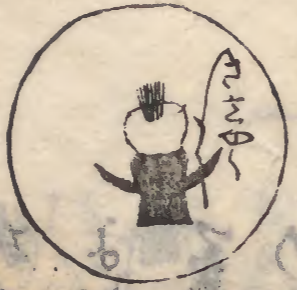
- 一 此の如くは一番の氷拵おて出御品^{ツツ}の如くはなるに
拵おてぬ^い天井^つの如くはなるに
拵おてぬ^い蓋^ふと^い同^じが^いの^い如^くは^い拵^おて^ぬ能^くは^い前^のは
一 此の如くは一番の氷拵おて出御品^{ツツ}の如くはなるに
拵おてぬ^い天井^つの如くはなるに
拵おてぬ^い蓋^ふと^い同^じが^いの^い如^くは^い拵^おて^ぬ能^くは^い前^のは
一 此の如くは一番の氷拵おて出御品^{ツツ}の如くはなるに
拵おてぬ^い天井^つの如くはなるに
拵おてぬ^い蓋^ふと^い同^じが^いの^い如^くは^い拵^おて^ぬ能^くは^い前^のは

- 一 此の如くは一番の氷拵おて出御品^{ツツ}の如くはなるに
拵おてぬ^い天井^つの如くはなるに
拵おてぬ^い蓋^ふと^い同^じが^いの^い如^くは^い拵^おて^ぬ能^くは^い前^のは
一 此の如くは一番の氷拵おて出御品^{ツツ}の如くはなるに
拵おてぬ^い天井^つの如くはなるに
拵おてぬ^い蓋^ふと^い同^じが^いの^い如^くは^い拵^おて^ぬ能^くは^い前^のは
一 此の如くは一番の氷拵おて出御品^{ツツ}の如くはなるに
拵おてぬ^い天井^つの如くはなるに
拵おてぬ^い蓋^ふと^い同^じが^いの^い如^くは^い拵^おて^ぬ能^くは^い前^のは
一 此の如くは一番の氷拵おて出御品^{ツツ}の如くはなるに
拵おてぬ^い天井^つの如くはなるに
拵おてぬ^い蓋^ふと^い同^じが^いの^い如^くは^い拵^おて^ぬ能^くは^い前^のは

まゝに内山の中へ戻りしりたりまゝ又因か神初子
下へ戻り茶入をすきの中へ戻りて居る

中へ戻り茶入の次第

- 一 戻りの茶入は先着とよ除て六條とよとて
あつた時茶入をすきて居るその時茶入をすきし
るやうにするのもあつて居るが戻りて居るやう
にすきし中へ戻りて居るやうにすきし中へ戻り
て居るやうにすきし中へ戻りて居るやうにすきし
の條も省令れおて戻りて居るやうにすきし
一 戻りの時茶入の條も省令れおて戻りて居るやうにすきし
とて居るやうにすきし中へ戻りて居るやうにすきし
又茶入をすきし中へ戻りて居るやうにすきし



因か神

一 戻りて居るやうにすきし中へ戻りて居るやうにすきし

戻りて居るやうにすきし中へ戻りて居るやうにすきし
戻りて居るやうにすきし中へ戻りて居るやうにすきし

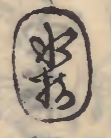
一 戻りて居るやうにすきし中へ戻りて居るやうにすきし

戻りて居るやうにすきし中へ戻りて居るやうにすきし

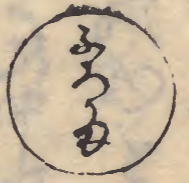
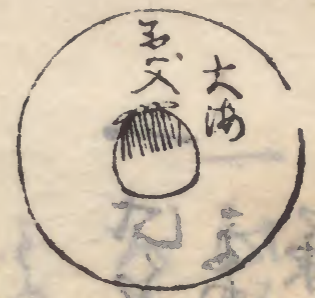
下へ戻り茶入をすきし中へ戻りて居る

茶の湯の作法

一 茶の湯の作法は、茶の葉を湯に投入して、湯を沸かし、茶の葉を湯から取り出し、湯を飲む。



蓋置



一 湯を沸かすには、湯を沸かす鍋に湯を注ぎ、湯を沸かし、茶の葉を湯に投入して、湯を飲む。

一 湯を沸かすには、湯を沸かす鍋に湯を注ぎ、湯を沸かし、茶の葉を湯に投入して、湯を飲む。

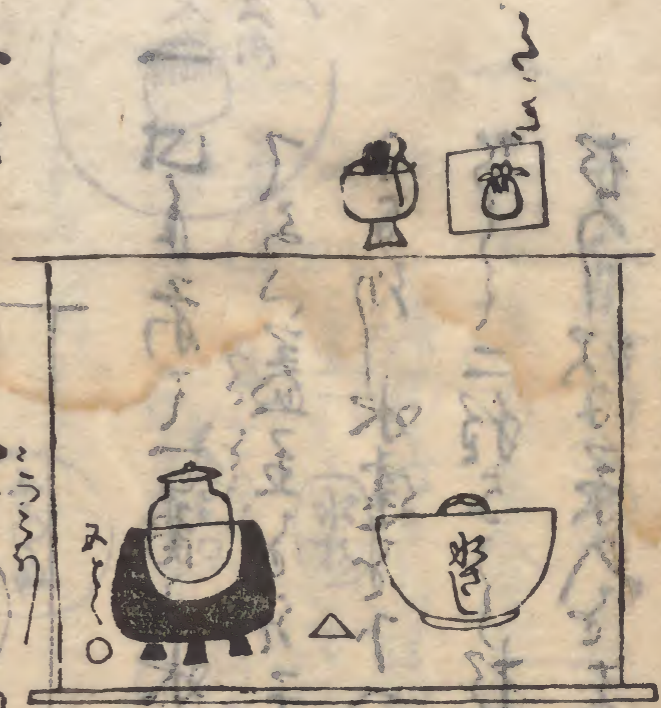
一 湯を沸かすには、湯を沸かす鍋に湯を注ぎ、湯を沸かし、茶の葉を湯に投入して、湯を飲む。

一 湯を沸かすには、湯を沸かす鍋に湯を注ぎ、湯を沸かし、茶の葉を湯に投入して、湯を飲む。



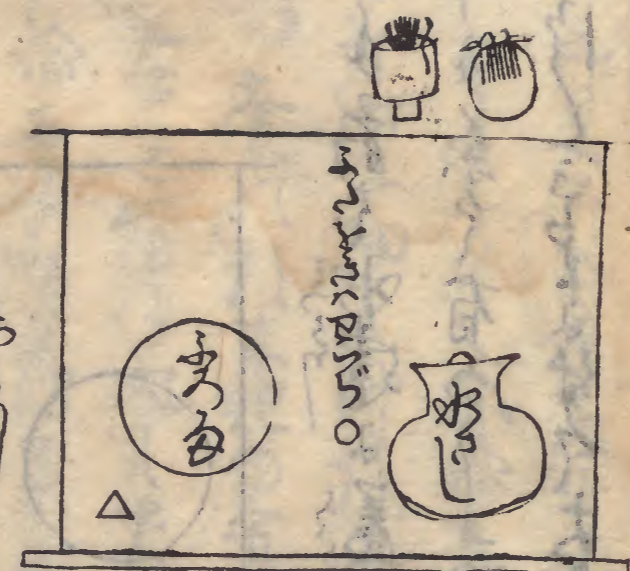
一 湯を沸かすには、湯を沸かす鍋に湯を注ぎ、湯を沸かし、茶の葉を湯に投入して、湯を飲む。

一 湯を沸かすには、湯を沸かす鍋に湯を注ぎ、湯を沸かし、茶の葉を湯に投入して、湯を飲む。



一 茶を略の三條よりおぼろげに
 珠を蓋裏より取り出しおぼろげに
 一 水は茶碗に注ぎ入れ
 ちりちりおぼろげに
 茶入を注ぎこ

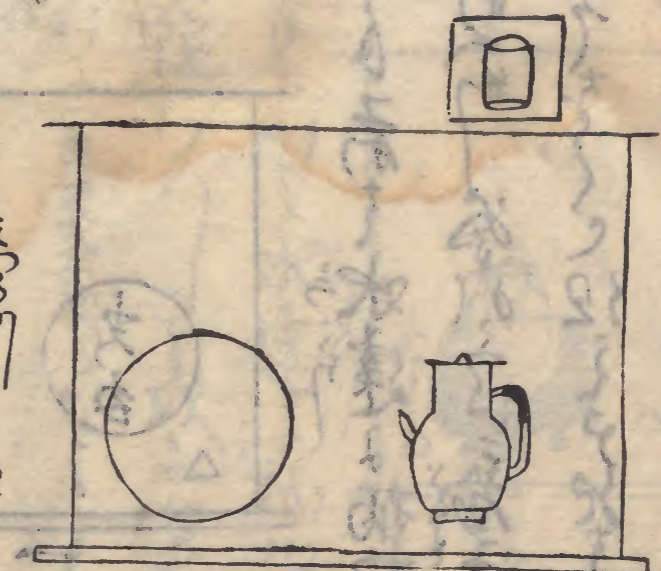
一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ
 一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ
 一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ



一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ
 一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ
 一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ

一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ
 一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ
 一 茶を略の三條よりおぼろげに
 茶入を注ぎこ

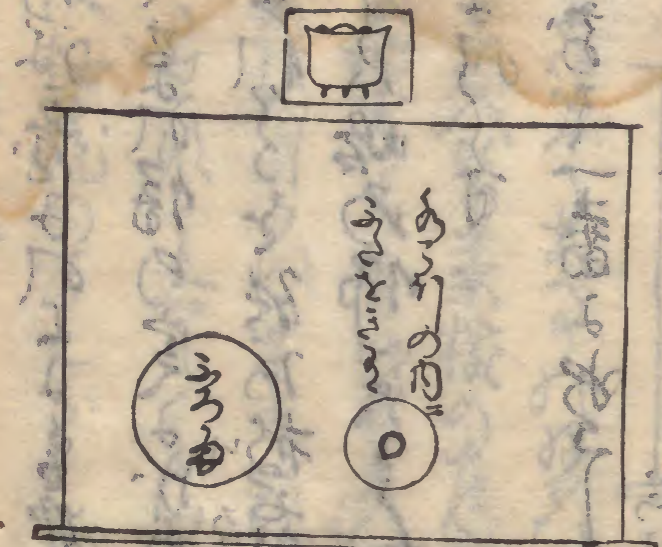
一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...



一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...

一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...

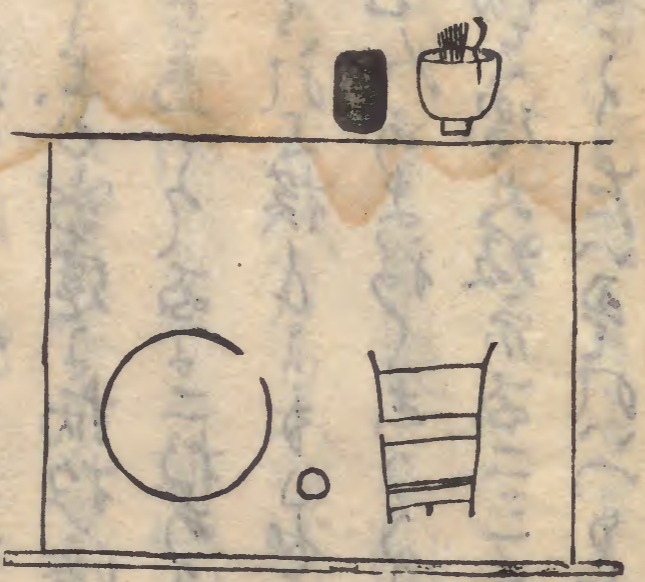
一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...



一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...
 一は... 一は... 一は...

一 徳らば養子のよき事なりやんか
 ちてまの傍の定よめたる様え又工
 さまの傍の定よめたる様え又工
 さあ、略の傍よめたる様え又工
 さまの傍よめたる様え又工

一 けのちの一番のあつた
 けのちの一番のあつた
 けのちの一番のあつた
 けのちの一番のあつた
 けのちの一番のあつた
 けのちの一番のあつた



一 どの二三の物をも集まれば
 水持しと桶と杖のあつた
 二つの物は二つにわけて、桶
 一 蓋蓋も二つを二つの事柄の
 一 どの二三の物をも集まれば

一 是よけりたるものあり
 どの茶入は茶櫃の左よき
 の茶櫃も二つを二つの事柄
 の茶櫃も二つを二つの事柄
 の茶櫃も二つを二つの事柄

茶櫃の事なり

... 一
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに

塚の...
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに

一 つつれつれと...
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに

一 舟す...
あつたにせよおぼろしきものありてはみづからしるべきに

一 ぬろりやまをたてよと巻子といはれきよし置て柔らう
 よけたる時と古時とよりし事あり今れは製糊と
 といひ初めにあり具とてはる

一 口焼よとぬろりぬ河の巻子の水指た時ぬ河のた置
 柄抄立水翻といはる置あり又古時ぬ河のた置
 とおろしぬろり水指といはるぬろりたよとて柄抄立
 水指あり置あり

一 一団が裏ぬ河巻子たすとも厚針といはるぬ河の
 ぬ河の巻子たすとも火着といはるぬ河のた置
 といはるぬ河の巻子たすとも

一 一上の條ありとと下とて同抄よ置大紐とて

古時と

答

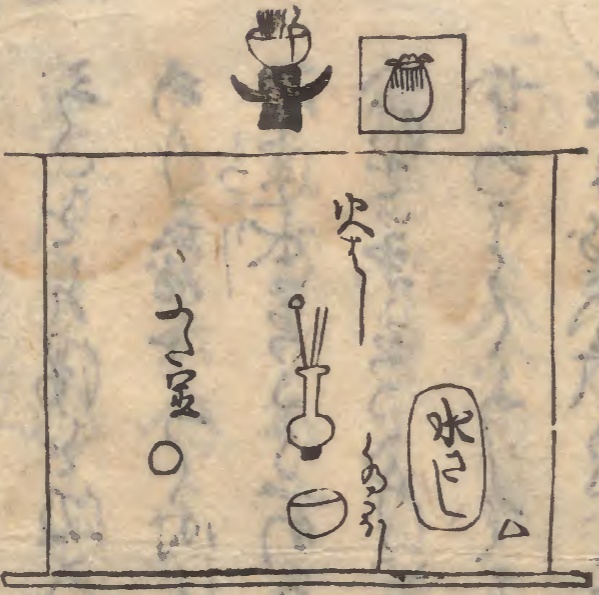
ぬろりこ

とと六條といはる

一 火着ぬ河のた置あり

ととぬ河のた置あり

一 一団と巻子の間一尺
 二寸又二寸の置こ



一 けいあてし亭へ向へしとて蓋置とてぬ河のた置あり

たては亭とのた置ぬ河の内し蓋置のた置ありぬ河のた置あり
 大いよよとた置ぬ河のた置あり初めにぬ河のた置あり

ぬ河のた置ありぬ河のた置ありぬ河のた置ありぬ河のた置あり
 巻子のた置ありぬ河のた置ありぬ河のた置ありぬ河のた置あり

新衣^{ニル}級^{イロ}と^ムさ^シ〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム

〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム
〜^レ建水^{ツキ}と^ム〜^レカ^ハリ^ニと^ムと^ム

二二五

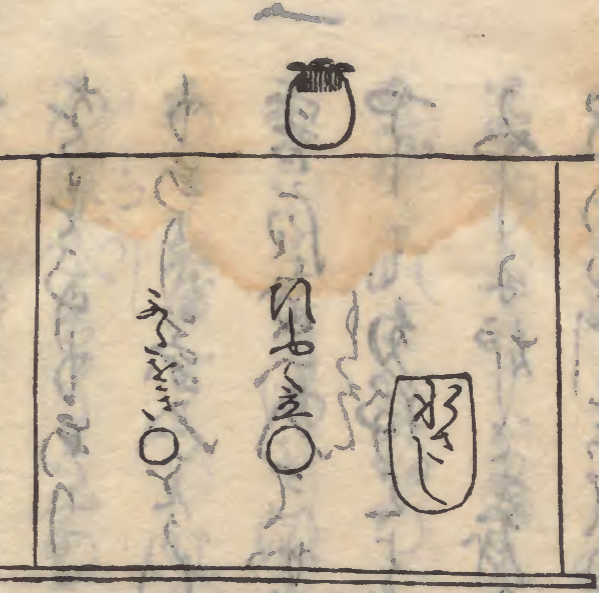
同

同

一 一とハ火着水遠二程
除て四つ敷く柄あり

同

一 一と茶入蓋は柄あり
柄のこも同柄あり



一 一と茶入蓋は柄あり
柄のこも同柄あり

一 一と茶入蓋は柄あり
柄のこも同柄あり

一 一と茶入蓋は柄あり
柄のこも同柄あり

一 一と茶入蓋は柄あり
柄のこも同柄あり

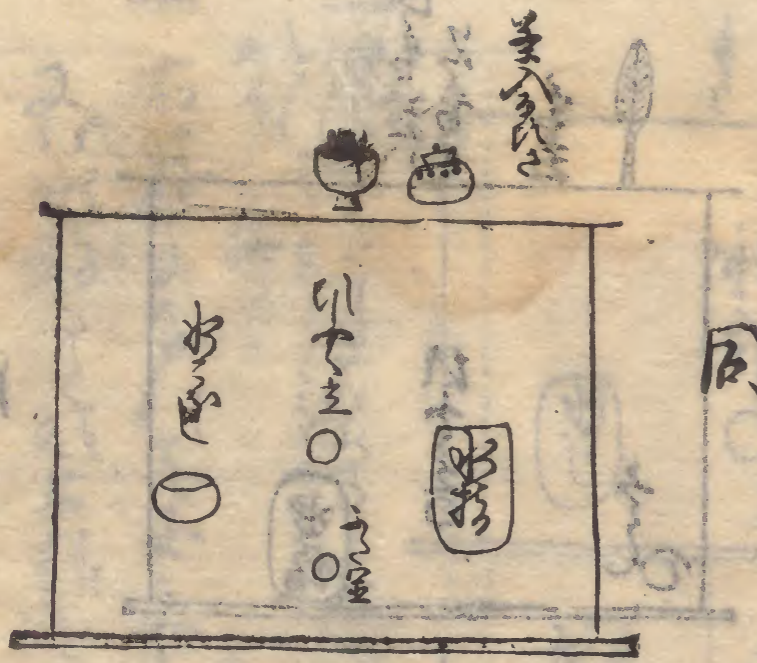
一 一と茶入蓋は柄あり
柄のこも同柄あり

同

谷

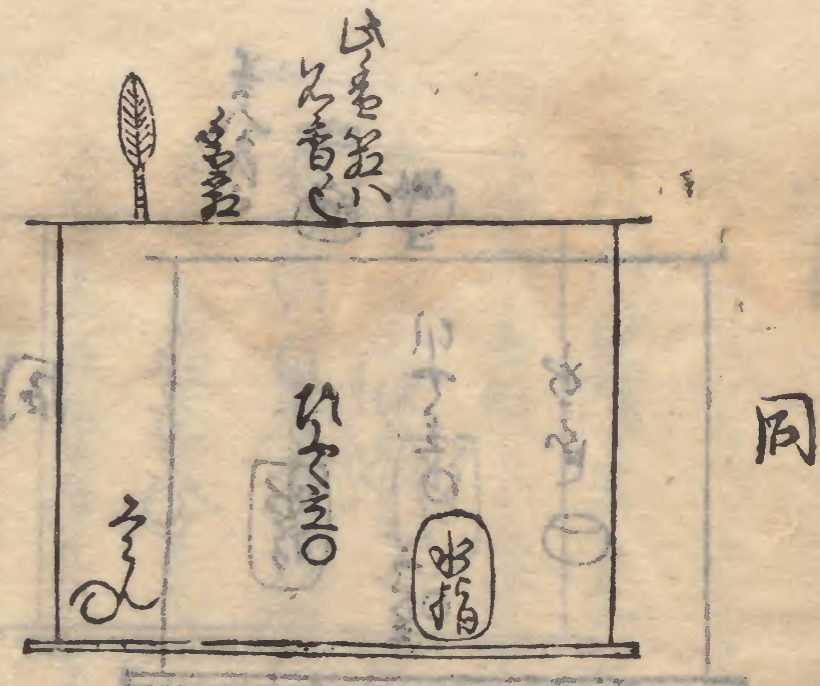
同

一 一と茶入蓋は柄あり
柄のこも同柄あり

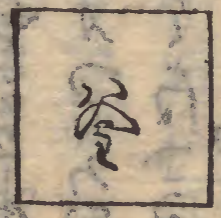
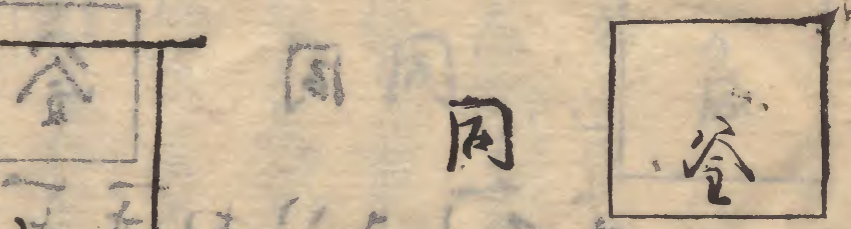
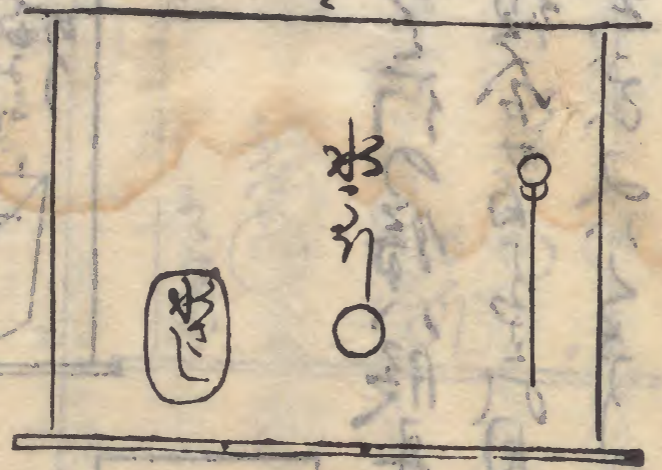


茶入

茶入



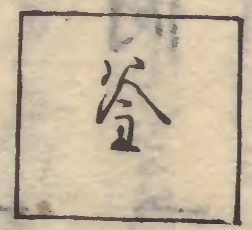
右様



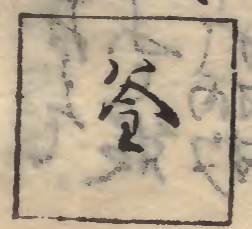
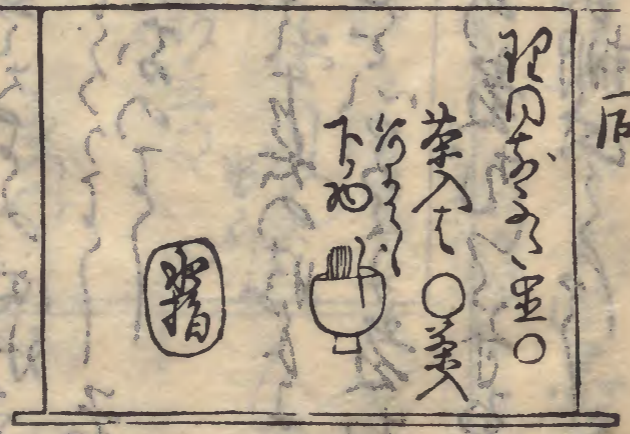
一、この行の記録と初ハ
 今しと星様とて返函
 と書おとハてまう星中
 あり
 一、この町にこの
 一、この町にこの
 一、この町にこの

一、この町にこの
 一、この町にこの
 一、この町にこの

一、この町にこの
 一、この町にこの
 一、この町にこの



一、この町にこの
 一、この町にこの
 一、この町にこの

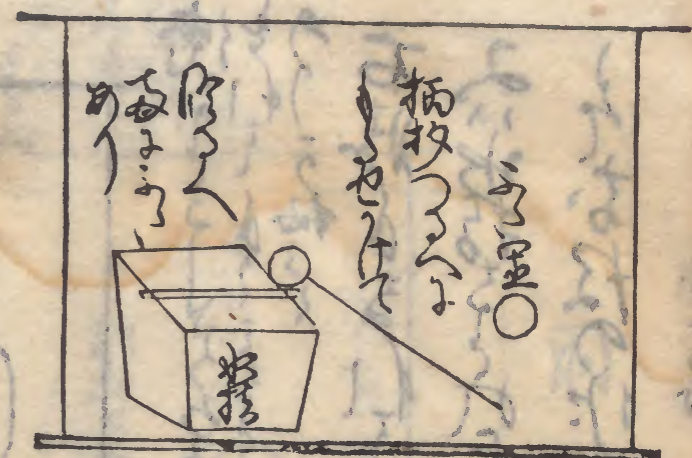


一、この町にこの
 一、この町にこの
 一、この町にこの

一、この町にこの
 一、この町にこの
 一、この町にこの

右様

右様

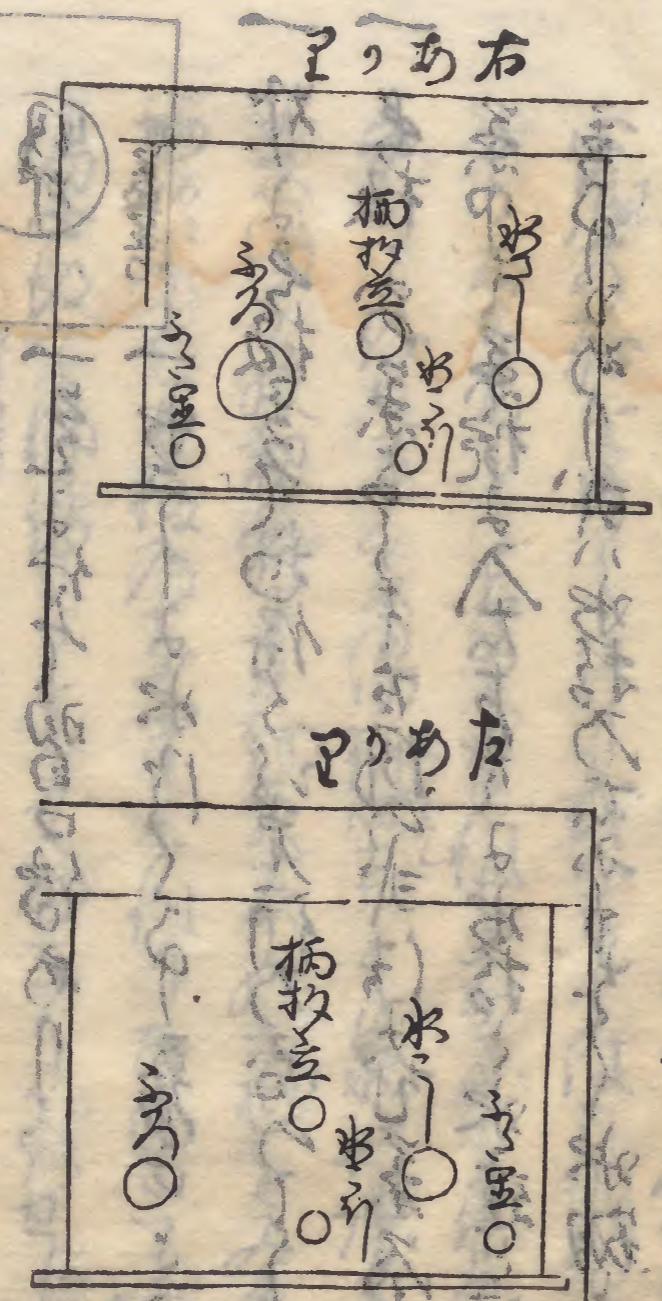


同
谷

一 是の如くして箱蓋を
 箱の中に入れてお
 いておく。箱蓋の
 裏面に糊を塗る。
 箱蓋の裏面に糊を
 塗る。箱蓋の裏面
 に糊を塗る。箱蓋
 の裏面に糊を塗る。

一 柄を右に折って
 おいておく。柄の
 裏面に糊を塗る。
 柄の裏面に糊を塗
 る。柄の裏面に糊
 を塗る。柄の裏面
 に糊を塗る。柄の
 裏面に糊を塗る。

一 是の如くして箱蓋を
 箱の中に入れてお
 いておく。箱蓋の
 裏面に糊を塗る。
 箱蓋の裏面に糊を
 塗る。箱蓋の裏面
 に糊を塗る。箱蓋
 の裏面に糊を塗る。
 柄を右に折って
 おいておく。柄の
 裏面に糊を塗る。
 柄の裏面に糊を塗
 る。柄の裏面に糊
 を塗る。柄の裏面
 に糊を塗る。柄の
 裏面に糊を塗る。



一 是の如くして箱蓋を
 箱の中に入れてお
 いておく。箱蓋の
 裏面に糊を塗る。
 箱蓋の裏面に糊を
 塗る。箱蓋の裏面
 に糊を塗る。箱蓋
 の裏面に糊を塗る。
 柄を右に折って
 おいておく。柄の
 裏面に糊を塗る。
 柄の裏面に糊を塗
 る。柄の裏面に糊
 を塗る。柄の裏面
 に糊を塗る。柄の
 裏面に糊を塗る。

一 侘より板を煮るありしり又板より仕修す

（煮）

板を煮る 水所

（湯）

蓋置。

一 是を板とし板の間にけりし心湯を
下の板の寸尺よりあはせ

一 煮のりも煮るは大井のあはせりし心湯
よりあはせりし心湯を日前よりあはせ

一 是より付て習口はあり

一 煮より水はくくり煮ると同

一 板より板を煮てお侍りし心湯の湯のり

一 板より煮るありしり古風の式法は心湯を入ありしり

一 煮中より煮板より入た板より水はく水建よりあはせ

一 煮のりありしり水はく水建よりあはせ

一 煮のりありしり水はく水建よりあはせ

一 大なりし習いありしり人あはせりし心湯

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり

心湯の心をあはせりしり心湯の心をあはせりしり



一 四方板とて板乃を平し小円形脇より
 うらりと或はうらりと柄板との或は
 若しくはしらりと冷み風炉小形は
 板乃内子板と板水のりたことごとく
 又羽帯も或はかきしることも無く
 一 水指をその茶を指し出茶立は又指し返して
 一 大小の習あり熱子も板返して水指をならし水指
 ごとく水と指しより水指を返しては引付流
 茶と立てし然し習はら極老茶とも徳茶も茶
 一 四方板とて圍炉裏は返りも茶立は返りも付の圍炉裏
 熱子よりしく但大切目と小切目の不同ありは温
 茶と前替はれし又大切目の板乃七の方を乃

あつちり又炉と板との間を熱子のり

一 炉の内も勿論水指を平し置く
 一 炉は返りも圍炉の内も大膳は左膳は右膳は板
 一 て板戻す中も中置きも中置きも熱子は
 戻す戻す中置きも中置きも熱子は
 一 戻す戻す中置きも中置きも熱子は
 一 水指のりや茶立は去金茶も置くなり

一 四方板とて平し置く
 一 茶立のりや茶立は去金茶も置くなり
 一 戻す戻す中置きも中置きも熱子は
 一 戻す戻す中置きも中置きも熱子は
 一 戻す戻す中置きも中置きも熱子は

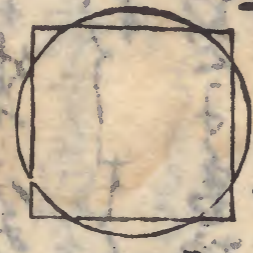


一 乞と虎板といふ多細し四方板と同
子で巻く行き少くもくるくわ
まじりもむらぬ人巻はちりさ
一 勿論炉も湯ごとく又此火は
よつらるゝかゝるし

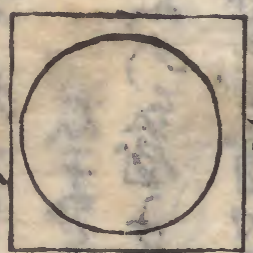
一 けり前巻の四方板よりり事なし
一 松平まじりあとの吟味より四方板より此き水指虎板
よの四角めつゝ水指ちりて然しと事畢れしと也と
銘利儀一般乃の初成に同し又此の四方板と
とまじりちりり又らいつゝ水指は水翻も畢合るゝ
ある上三指乃の水さしれり柄板置りて
く同まじりて又此の水指は翻蓋置し歸り

日柄板請し保しとる

一 け火鉢は所乃は中り習らる師流とく
一 丸板は四方板より出る物同しと傳へらる
よもあしけ作板とて切らふ心四方と後
切まりせらららら丸板之経ちり也と



一 ちり切角のまじり又さしり
也と丸板の少は事略言し



一 け丸板と小板より集まると風如しなり小板と
一 け小板置あま移り人の志しる事
さつとよなる物大なるはあはれ集り
言ひ巻子より小板とて目録のいふまじり
くねり小板と板は保て集りあらしめ

四方と曰前板は夕たはし余乃ちを室に替りて

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

茶子の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

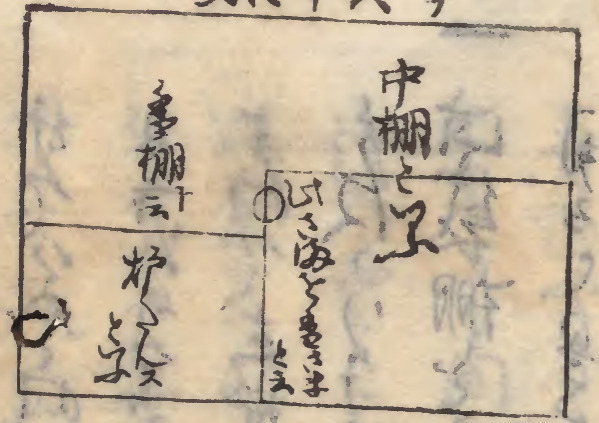
一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

一 茶の器は乃けはたて茶子と云ふ板と心切てふ後さう茶

見て作らざる袋棚はとてを喜ばまうさう人乃り
 ぬりもあらずくしぬくはさきうはり用らるるし
 或時予上京してをさし糸湯は現まじやえ自惚乃
 人よとよは袋棚たるはあつたは袋棚とを
 しいちうそつめり人乃作らると同きは人の言
 よ糸湯のあはさしとよ中かくとあつて是利体
 乃作らして下りしときを袋とついでおと入まら
 袋棚とつよは袋よはとよ入るるととよも多人故
 乃るよ糸梳と二つはうか入つ又大なる糸入とよ
 あつて古業るとよあつてはとよ一袋とよ下京
 糸湯はよ自惚の人あり是はたのしく同き
 杖はよ大なるの習ひあり卒令は信るよあつ
 とよ一袋とよ本とよ大事れ口傳もは袋棚
 けの習とよきたてと棚の子細とよよとよあ
 ぬとあつてのよしあつてもあつたは比耶の
 ともとも志れぬ古織物とよあつたはすは袋と
 ねはつては母の人乃師とよ古織のつれはつて
 志りぬりぬりあつては不審とよあつてあつて

与六并と



一は棚とよあつては家國の作は入る糸湯
 なる喜ぶるは天下を双也とて子よ喜
 炉好をみるは炉よ一袋子不自然ある
 とよ浮袋とよして人乃工中ははりぬ
 比と弘治元年正月吉日は糸湯

廿六日卯の定又も善いなり乃武月と云はれずの年ノ空フシ
 のまにゆく一と下ノ新をせらけり高塚より一と
 よつて志也信より一通書に流ありおりの延徳建の信
 とらけり一とゆり師流とゆき一と
 一は袋棚とみて信乃たしとせはちておしと云ふこと
 ありし一と云ふは始りけり一内流ハ一と善好下
 の業を一一と袋棚より一とせらけり一と味ハ一と
 業を一一と灰より一とせらけり一と下ノ善好下
 上ノ業を一一と作はた業を一一と新古位より善好下
 せらけり一と業を一一と乃つて善好下一と云はれり
 一と下ノ善好下一と云はれり一と守宅より一と内ノ善好下
 ありし一と業を一一とゆりては下ノ新をせらけり一と善好下

六月廿六日

時を養てて一とせらけり一と下ノ善好下
 善好下ありし一と下ノ善好下一と云はれり
 相上の人なきたし一とゆき人ノ一とせらけり
 一と下ノ善好下一と云はれり一と下ノ善好下
 ありし一と下ノ善好下一と云はれり一と下ノ善好下

八

一たしをせらけり一と下ノ善好下一と云はれり
 善好下ありし一と下ノ善好下一と云はれり
 一と下ノ善好下一と云はれり一と下ノ善好下
 ありし一と下ノ善好下一と云はれり一と下ノ善好下

三十一日

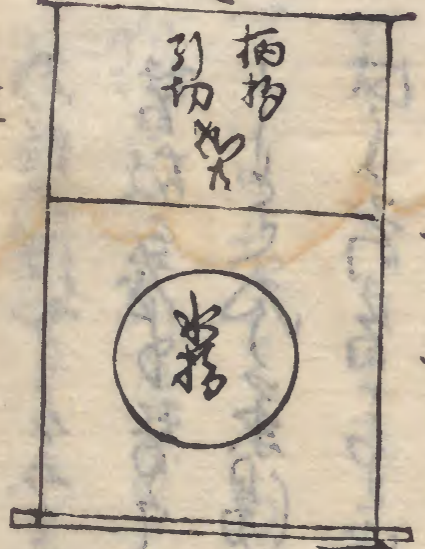
三十一日

一とどた一とどたのふも如くも
 りつ又此道中をとりつ内丸棚一とどた
 一とどた習ありその他前より習あり
 一とどた習ありその他前より習あり
 一とどた習ありその他前より習あり



一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも

美院



一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも

一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも
 一とどたのふも如くも如くも如くも

寛永三年

林鐘中旬

源大常因板



三條町町奉行所

